

30

国 語

松 蔭 高 等 学 校

平成三十年度松蔭高等学校入学試験問題

国 語

○ 注 意

- 1 問題は①から⑥までで17ページにわたって印刷してあります。
- 2 指示があるまで中を見てはいけません。
- 3 検査時間は五〇分です。
- 4 解答はすべて解答用紙に明確に記入し、解答用紙と問題用紙は別々に提出しなさい。
- 5 解答を直すときは、きれいに消してから新しい解答を書きなさい。
- 6 検査番号(算用数字)、氏名を、解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

風が涼しい。

満員電車を降りると、すうつと身体の周りが冷える。ラッシュの人込みが、少し暖かくて心地よいと感じるくらいの気温だ。つい二週間前までは「冷房の利きが甘い」なんてほやいてたのが嘘みたいに見える。

僕の住む町は、都心から四十分ほどのところにある、普通の住宅街だ。朝夕には通勤のために多くの人がこの駅を利用する。僕は比較的自由な勤務時間で動いているので、毎日ひどいラッシュにあうことはない。けれど、今日はたまたま夕方の混み合う時間に帰って来ることになってしまった。

人の流れが、僕を巻き込んだまますすると階段の方へ進んでゆく。急ぐこともないので、なんとなく歩いてみると、川の中州なかのように流れが割れている場所が見えた。a 興味を覚えて覗いてみると、そのほかかりと空いた中心には、一人の青年がいた。

なぜその青年の周囲だけ人がいないのだろうか？ 遠目にもござっぱりとした服装をしているし、どうやらなかなかハンサムにも見える。b、彼の手もとを見た① トタン、僕の疑問は氷解した。

白い杖。ア それの意味することを僕だつて知っている。

青年は杖で足もとを探りながら、② シンチョウに歩いている。けれど階段の手すりまではまだまだ距離があった。人々は、少し心配そうに彼を横目で見ながらも、自分が手を出すことではないと言いたげに進んでゆく。

そう、^イそれはよくある光景だ。皆が冷たいわけではない。多分、彼が転んだら歩み寄って手を貸す人が何人もいるだろう。しかし、本格的に彼が困る前に手を貸そうとする人はいない。かつての僕がそうだったからよくわかるのだが、皆余計なお世話をしてしまうのが恐いのだ。でも、よく考えてみて欲しい。僕らが少しばかり上滑りしたところで、ただの笑話話だけれど、身体の不自由な人が本当に困ったときの不安な気持ちなんて、想像がつかない。

僕は^{*}巢田さんの事件があつてから、こういう場面に出会うことが多くなった。きっと、今までの僕では気づかない視線を持ったからだと思う。そして気づいてしまった以上、見過ごすことはできない。

僕は流れに逆らつて、彼のいる場所を目指した。ぼつかりと空いた^ウ中州に飛び込んだ僕を、たくさんの目がじろじろと見ている。でもそんな^③雰囲気にも慣れた。

僕は彼の白いシャツの肩に触り、声をかける。

「こんにちは。改札まで一緒にしましょう」

身体をぴくりと反応させて、彼はこちらに向き直る。やはり、ハンサムだ。細面で、色も白い。薄く色のついた眼鏡も、彼がかけているとファッションに見える。

「ありがとうございます。じゃあ、あなたの右手につかまらせて下さい」

彼は微笑むと、僕の手を^ヒ辿つて肘のあたりを軽くつかんだ。右手には杖を持っている。

「^c、利き手を使えた方がいいんだね」

目の不自由な人をエスコートするのは初めての経験なので、僕はわかりきったことを口に出してしまう。

「はい。ぼくにとつて利き手は目のかわりですから、自由になつていないと不安なんです」

二人でゆつくりと階段を上つているうちに、人の流れは徐々に減つていった。

「ありがとうございます、ここで結構です」

改札口を出た所で、青年がべこりと会釈をした。

「もう大丈夫？」

送つていこうか？ と言いたい気持ちを僕はぐつとこらえる。彼だつてこの駅を使っている訳だし、それをわざわざ送るといふのも、なんだか彼を馬鹿にしたような発言になつてしまふそうだからだ。

「大丈夫ですよ。今日みたいなラッシュにあうと、少し混乱しますけど、いつもはこれでなかなかスムーズに歩いてるんです」

彼は微笑んで、横断歩道の方へと黄色いブロックの上を進む。僕が向かうのとは反対の道なので、ここですらよならになる。

「そうですか、じゃあここで僕は失礼します」

「ご親切にありがとうございますございました。ぼくは塚田^{つかだ}基^{もと}といいます。よかつたら、あなたのお名前も教えてくださいませんか？」

「あ、はい。僕は坂本司です。保険会社に勤めてるサラリーマンです。二十七歳です。見た目は普通。多分、一緒に歩いていても怪しまれない程度には」

しなくてもいい自己紹介まで披露した僕に、塚田くんは左手を差し出した。

「面白い人ですね、坂本さんて。でもありがとうございます、よくわかりました。今度またこの辺りで僕を見かけることがあつたら、声をかけて下さいね」

「うん、そうするよ。それじゃあ、気をつけてね」

軽い^④アクシユを^⑤交わして、僕らは別れた。

* 栗田さんの事件：出典作品の前の部分で、栗田という女性を友人と一緒に助けてあげた事件

問1 〓 線①～⑤のカタカナは正しい漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問2 〓 線ア「それが意味すること」とあるが、それはどういうことか。本文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。

問3 a 〓 c 〓 にあてはまるものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

ア とにかく イ なるほど ウ しかし エ ふと

問4 〓 線イ「それ」についてつぎの各問いに答えなさい。

① 「それ」を生み出している人々の気持ちを――線部より前から十三字で解答欄に合わせて抜き出しなさい。

② また①の気持ちの原因となっているのはどのような感情か。十六字で抜き出しなさい。

問5 〓 線ウ「中州」とはここではどのようなものをさしているか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問6 つぎの中で本文の内容と合っているものを全て抜き出し、記号で答えなさい。

- ア 坂木は以前よりも困っている人を放っておけない性格になった。
- イ 一般的には体の不自由な人に親切にすることはたやすいことではない。
- ウ 一般的には困っている人に関わることは面倒なことである。
- エ 坂木は塚田に対して必要以上に親切にふるまうことを躊躇した。
- オ 塚田は見知らぬ人に対し、内心不安な気持ちを抱いた。

2 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

嗟嘆でぞだち、今は宇治でくらしている私に、としての自覚はない。私は自分のことを、京都ではよそのもの、京都流に言えば「^①よそさん」だと思っている。洛中^{*}のつどいへ顔をだす場合でも、一種の居留民としてのぞんできた。

この言い方を、おおげさにすぎると考える読者もおられようか。居留民だなんて、外国人じゃあるまいし、と。

しかし、京都の町衆は、しばしば日本人のよそさんを、外国人なみにとらえてきた。たとえば、東京や大阪の資本がささえる店を、しばしば「外資系」だと、彼らは^a陰で言う。とりわけ、ぱつと見が京都風の町屋カフェなどを、この言葉で^アあげつらうことは多い。

「でも、あの店、外資系やで」

話をもどす。とにかく、私は自分のことを、京都人だと思っていない。だが、私は首都東京の雑誌から、京都人としての仕事をたのまれることがある。たとえば、京都でおすすめの料理屋を、地元民の立場で紹介してくれ、と。京都の人が、隠れ家のようにつかっている店を、案内しろと言われたこともある。

こういう^bイライは、ほんとうにこまる。私のことを、買いかぶらないでほしい。私が京都でよそのあつかいをされる度合いは、東京の雑誌記者とかわらないのだから。

のみならず、私は京都のいわゆる穴場情報に、まったくつうじていない。食事や衣服にこだわる情熱も、もちあわせてはこなかった。まあ、古本屋案内や建築めぐりぐらいなら、すこしはできそうな気もするが。

京都の店をよく知っているという点では、むしろ東京のメディア人に感心することが多い。鱧^{はち}はどこがうまい、鮎^{あゆ}はあそこが絶品だ、などという話を、私は彼らからよく教わった。ミシユランにはのっていないけ

ど、どこそこのほうが味はたしかだ、というようなことも。

そのうんちくには^イ脱帽するが、しかし^cイワカンもいなく。たまにしかこない京都の料理屋事情を、何故それだけくわしくしれようとするのか。御苦労なことだなと、そう思う。

食通であることをほこる人が、それだけ首都には、おおぜいいるのだろうか。首都圏の店を知っているだけでは、はりあえないので、京都までグルメの足をのばす。京都になじみの店があるとおわせ、差をつけたがるむきは、いくらかいそうな気がする。

京都特集をしばしばくむ雑誌の担当者は、何度も京都へきたことがあるだろう。それで、いやおうなく、京都の^d料亭事情にもくわしくなってしまうのかもしれない。

いずれにせよ、こういうメディア人の京都びいきを、私は^ウいぶかしく思っている。いや、めいわくだという気持ちさえ、いだかないわけではない。あなたたちが京都に、そうやっておもねるから、洛中の人々もつけあがるんじゃないか。洛外^{*}が見下される一因は、東京メディアが京都をおだてることにもあるんだ、と。

東京には、京都のことなどなんとも思っていない人だって、おおぜいいる。よほどのできごとでないかぎり、東京以外の現象には興味をしめさない人も、少なくない。見聞きにあたいするものは、みな東京にあるという考えさえ、彼地では^e流布している。

だが、そういう人たちは、洛中人士の前にあらわれない。京都にあこがれる物好きだけが、近づいてくる。あるいは、メディア人もふくめ、京都をたてまつることで利益のみこめる人々が。

そして、彼らとの出会いがかなるおかげで、京都人は誤解してしまう。首都東京も、京都には一目おいているのだ、と。どんな雑誌だって、企画にこまったらよく京都特集を、くむじゃあないか。そういつて鼻をうごめかす洛中の旦那^{だんな}に、私は何度も出会ったことがある。

ああ、こういう人たちが洛外を馬鹿にするのだなと、私はそのつど考えこむ。嵯峨などを低く見るのは、首都のメディアにもはやされ、うれしがつている連中だ、と。言葉をかえれば、けっこう底が浅いんだと、私は思ったがつているようである。まあ、それが私の精神衛生につながっているということかも、しれないが。

くらべれば、大阪のメディア人は、それほど京都の店をありがたがらないような気がする。京都の店がえらそうにふるまうことで、値打ちをつりあげていく。そういう上げ底のからくりを、近くにいるおかげで、^エ見すかしているせいもあるう。安くてうまいところは大阪のほうが多いと、たいてい大阪人は思っている。

関西テレビ（在阪局）の某役員からは、こんな話を聞かされたことがある。系列のフジテレビから出張で関西にやってくる重役たちは、京都の店へいきたがる。大阪にだっていい店はあると言っても、彼らはなかなか聞きいれようとしない。やたらと、京都へでかけようとする。京都のほうがそれだけよく見えてしまうのだろう。全国のイメージをくらべれば、^②やはり京都は得をしているね、と。

言外に、実質では大阪のほうがすぐれているというふくみも、彼はもらしている。そして、そう考えている大阪人は、けっして少なくない。京都の魅力は、実態以上にふくらまされているとみなす人が、この街にはおおぜいいる。

^③ 大阪市の北、京都市の南西に、高槻^{なかつま}という都市がある。大阪府下の都市である。その高槻にすむ人々を、大阪人はよくひやかす。

「あんたら、もうほとんど京都やんか。大阪ちゃうわ。いつそのこと、京都になつてもたらどうや」

おわかりだろうか。大阪では、京都に近いことが、しばしばからかいの^ま的となる。こういう^や揶揄^ゆがなりたつのは、大阪人があまり京都をやまっていけないせいである。統計的には語れないが、私の実感でも、京都

をみくびる度合いは、大阪がいちばん強い。

そして、その点だけでも、私は大阪という街をありがたく思っている。首都のメディアがまつりあげる京都のすかした部分を、ないがしろにもらえる。洛中^{らくちゆう}人士のほころしげなところを、他の誰よりもあなどってくれるのは、大阪人である。

ただ、ざんねんながら、大阪のメディアに昔日の力はない。今は、出版界も放送界も、東京の一極に集中するかつこうで、なりたつている。京都へのあこがれに歯止めがかけられる大阪の存在感は、弱くなってきた。

まあ、私が今書いているこんな本をだしてくれる出版社も、東京にはある。あまり、悲観はしないようにしておこう。

（『京都嫌い』井上章一）

*洛中…京都の市中・市街地

*洛外…京都の郊外

問1 〓線 a ~ e のカタカナは正しい漢字で書き、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

問2 にあてはまる言葉を本文中から抜き出しなさい。

問3 〓線①「よそさん」と反対の意味の言葉を本文中から抜き出しなさい。

問4 ——線ア～エの言葉の意味をつぎの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- A 物事の良し悪しについて論じあう。また、欠点、短所などをことさらに言い立てる。
- B 悟って知る。みぬく。
- C 敬意を表すこと。また、降参の意を表すこと。
- D 変なところがあつて納得がいかない。疑わしい。不審だ。

問5 ——線②「やはり京都は得をしているね」とあるが、大阪人はなぜこのような発言をしたのか。その理由として正しいものをつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 大阪よりも優れている京都は、全国的にもイメージが良く、観光地としても成功しているから。
- イ 大阪よりも優れている京都の魅力は、実態以上に膨らまされているから。
- ウ 実際には京都よりも大阪の方が優れていると大阪人は考えているから。
- エ 京都よりも大阪の方が優れていることを京都人にも伝えたいから。

問6 ——線③「大阪人はよくひやかす」とあるが、この理由を解答欄に合うように、本文中の語句を使って答えなさい。

問7 つぎの中で本文の内容に合致するものには○、合致しないものには×をそれぞれ答えなさい。

- ア 筆者は外国人として、京都の人々からはよそもの、よそさんと思われることを受け入れている。
- イ 筆者と東京の雑誌記者のよそものの度合いは、京都人にとってはどちらも同じである。
- ウ ほとんど全ての東京のメディア人は、京都においての鱧や鮎の名店について通じている。
- エ 東京には、見聞きに値するものが溢れ、京都の現象などには興味を示さない人は大勢いる。

3 つぎの短歌について、あとの問いに答えなさい。

くれなるの二尺のびたる薔薇の芽の針やはらかにへ 〽の降る

(訳) ① 色をした二尺(60cm)ほど伸びた薔薇の ② は、まだいかにも柔らかそうで、そこにしつとりと静かにへ 〽が降っている。

問1 ①、②に入る語をつぎの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 赤
- イ 青
- ウ 黄
- エ 花びら
- オ とげ
- カ 枝

問2 へ 〽には、春を表す季語である漢字二字が入るが、その漢字の読みをひらがな四字で答えなさい。

問3 この歌の作者は「柿くえば鐘がなるなり法隆寺」という俳句の作者としても知られている。作者名を正確に答えなさい。

4 つぎの古文について、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、はんきゅうあじやり範久阿闍梨といふ僧ありけり。りょうこんいん* 山の楞嚴院に住みけり。

ひとへに極樂を願ふ。どんな時も行住座臥* (西方に背を向けなかった) 西方を後にせず。

睡をはき、大小便西に向はず。入日を背中にア負はず。

① 西坂より 山へ登る時は、身を(斜めにして)そばだてて 歩む。

常に 曰く、(木が倒れるときは、必ず傾いている方向に倒れる)「植木の倒れること、必ず傾く方にあり。心を にかげんに、

② なんぞ志を遂げざらん。臨終正念疑はず」となんいひける。

* 往生伝に入りたりとか。

* 山……ここでは比叡山をさす

*西方：西方に極楽浄土があるとされる

*往生伝：往生（死んで極楽に行くこと）した人々の伝記を集めた書物

問1 〓線ア「負はず」、イ「曰く」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

問2 〓線①の理由を説明しなさい。

問3 に入る語を本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問4 〓線②「なんぞ志を遂げざらん」について、つぎの問いに答えなさい。

(1) 現代語訳をつぎの中から選び、記号で答えなさい。

- ア どうして志を遂げられなかったのだろうか
- イ どうにかして志を遂げたいものだ
- ウ どうして志を遂げられないことがあるのか
- エ なんのために志を遂げようとするのか
- オ なにが志を遂げさせまいとするのか

(2) 「志」とは何か、具体的に書きなさい。

5 つぎのA～Dの文章は小説の冒頭文である。それぞれの作品名をあ～お、作者名をa～eより選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりしている。小学校にいる時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇むぐみをしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。

B 「完璧な文章などといったものは存在しない。完璧な絶望が存在しないようにね。」僕が大学生のころ偶然に知り合ったある作家は僕に向ってそう言った。

C 山の手線の電車に跳ね飛ばされて怪我をした。その後養生に、一人で但馬の城の崎温泉へ出掛けた。

D 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向側の座席から娘が立って来て、島村の前のガラス窓を落した。

作品	あ	雪国	い	坊ちゃん	う	走れメロス	え	城の崎にて	お	風の歌を聴け
作者	a	太宰治	b	志賀直哉	c	川端康成	d	村上春樹	e	夏目漱石

6

つぎの——線部と同じ意味・用法で使われているものを、それぞれあとの
ア〜エから選び、記号で答えなさい。

1 草食恐竜は肉食恐竜に食べられる運命にあった。

ア このキノコは食べられる。

イ この楽譜なら覚えられる。

ウ 予算案が国会にかけられる。

エ 幼いころの様子が思い出される。

2 子供らしい振る舞いをする。

ア いかにも政治家らしい。

イ あしたは家族で出かけるらしい。

ウ 書き初めのできばえがすばらしい。

エ うわさは本当らしい。

3 車で一時間の道のりだそうだ。

ア この絵は今にもしゃべりそうだ。

イ いまにも父が帰宅しそうだ。

ウ 彼は外国に留学するそうだ。

エ 君の学校はきびしそうだ。

4 今年は雪が降らない。

ア 池の水がよごれてきたない。

イ 母は一日も家事をやすまない。

ウ せわしない毎日だ。

エ 大きな差はない。

5 猫のように体をまるめる。

ア 彼のように速く走れたらいいのに。

イ わざときこえるように話す。

ウ 早く帰ってくるように言われた。

エ おだやかな海のように落ち着いた心。

